

MT Z06 010 T69

No.

学問の自由  
昭和四十四年一月二十九日NHK総合テレビ  
（放送二月二日）  
私が二十歳前後に物理学の研究を一生の仕事にしようという決心してから、四十年以上の年月がたつた。その間ずっと大学の中で研究を重ねてきた。振り返ると、京都大学とは学生時代から今日のまで一歩踏む深い大淵を歩いたことでもある。東京大学の兼任教授たりたりも、コロン

た

(出版局大阪編集部)

200

c021-170-010  
[Z06 010 T69-1 (MT)]

BOX 40

NT 206 010 T69  
No.

二十六年の業任がなされたことある。私が  
京都大学から離れることになった。第一の理由  
は、ここに學問の自由があつたからである。私  
に拘束されることなく、自分のやりかたに研究  
をやり、また自分のよき知つてゐる学問の  
創着をする、そういう自由があつたからである。  
私が大学に入るとき、それ以後、今日まで学問の  
道に歩みつづけてきたことが、私の私生活と  
て、この上もほかに仕合せである。私からい  
ふと、この日本人の間では、学問に違ふが  
あつた。よい

(出版局大阪編集部)

200

BOX 4 D

No. 3

条件に蒙られていた。私と同じよう学問に志  
してと経緯的を事柄で大事まで行け印かつ  
人か、にんさんあつた。大事まで行けても、い  
い、の事柄で、学問以外の道を進めれば、下  
ゆ、の事柄で、人問の進めか、い、は、い、ろ  
い、の事柄で、これに見出し、行きの、か、あ、る、か、ら、学問  
以外の世界で、私以上に、進めか、い、あ、る、人、生、を、選  
り、つ、つ、あ、る、人、も、あ、る、で、あ、る、ろ、し、か、し、私、に、と  
つ、つ、は、日、本、に、大、学、が、あ、る、中、に、学問の進め  
あ、や、つ、づ、け、る、こ、と、か、で、進、め、の、は、~~進~~進、め、~~あり~~あり、

か  
も  
か  
つ  
た  
  
(出版局大阪編集部)





No. 6

さがわかってくる。私にはとても大層問題の  
全貌、その深さ広さを全体的に現状把握し  
て解決策を提案を出す自信はない。  
ただ船にとって何事も責任をもちたであつ  
た学問の自由というものが、どんなに大層か著う  
ても、矢張り私事二つがあつてはなう。此れ  
については自信をもつていえるのである。  
そこで一俵私たちが長年にわたつて、大層に  
おける学問の自由と争んで来たものは何であ  
つたか。私自身決して此の争いに  
関係してき

私には、  
自信はない

(出版局大阪編集部)

No. 7

ののである。その間に先起者と後起者  
 大分は別首と研究の場である。真理を信ず  
 し、故にこれを発見し、その水を信ずるに、  
 中々此水にさらには字外の人にも信ずる。  
 進に本に伝達さるれば真理を信ずるとして  
 信ずるし、下の論である。その場の真理  
 とは、水のまじり混雑を物つものとして、  
 一、真理はその現にわかつている場においては、  
 多方向に亘って真徳さるれば、水並に有るの事  
 究の真徳を、それからその一部を支配する

(出版局大阪編集部)

湯川記  
湯川記

湯川記







No. 11

此の枠の中に閉じておられておつてはいけな  
い。研究は自分でやるべきであらう。学問の研  
究は創造的なものであつた。領域の枠からはみ  
出す可能性が常に溢れ出さなう。そういう  
意味で学問の研究は自由にならねばならぬ。  
そういう学問のあり方、その発展の仕方、の  
内的自由性から見て、従来の大学の自治とい  
ふもの、或はその自由性

(出版局大阪編集部)